



楽しみにしていた運動会（よつば保育園）

議会だより しらたか

9月定例議会

保育園の老朽度を調査 ③p

- ・平成20年度決算審査.....⑥p～⑨p
- ・町への質問・提言（3議員が一般質問）.....⑩p～⑫p
- ・大ホールは取り壊しか（中間報告案）.....⑭p

Vol.104

2009. 10. 22

老朽度を調査



お父さんにだっこ（よつば保育園）

- 定例議会は、9月8日から18日までの11日間の会期で開かれました。
- 本会議に提出された主な議案は、
 - ① 20年度各会計決算、
 - ② 白鷹町スクールバス条例を一部改正する条例など条例2件、
 - ③ 21年度各会計補正予算などですが、審議の結果、原案のとおり可決しました。
- 政府備蓄米、日米FTA（自由貿易協定）に関する請願2件は、全会一致で採択となりました。
- 一般質問には3名の議員が、税外負担、人・自然ともにきらめくまちづくり、介護制度などに論戦を展開しました。
- 任期満了の教育委員会委員、固定資産評価審査委員会委員、人権擁護委員候補者の人事案件には、全会一致で同意しました。

保育園の

こぐわ・あゆかい保育園の 施設の安全性を確保するため

9月9日の本会議で、平成21年度一般会計補正予算に上程された「保育園の施設老朽度調査委託費200万円」について緊迫した質疑がありました。

議員から、「調査をする目的や内容と平成20年12月議会で当局が撤回した

内容と同じなのか」の質問に①民営化に向け、受け皿となる法人に施設の状態を明示する必要があること②保育園の安全性を確保するため③どのくらいもたせるにはどのような修繕・経費が必要か把握するためで、以前とは若干変わっています」との答弁がありました。



あゆかい保育園（築35年）

また、「こぐわ・あゆかい保育園の単独の民設民営を想定しているのではないか。鮎貝土地区画整理地内に統合保育園を建設するとして福祉用地を取得したこととの整合性はどうか」との質問がありました。

町長からの、「福祉用地は統合保育園と子育て支援センター建設の用地です。計画どおり、こぐわ・あゆかい保育園の統合保育園を建設するものと、現時点では考えていません。」との答弁を受け、一般会計補正予算を可決しました。



こぐわ保育園（築26年）

平成20年度決算は、9月11日に決算特別委員会（議長と監査委員を除く12名）を開会し、11会計を審査しました。審査に先立ち、町長は新聞などで報道された自身の行為について公職選挙法の認識が不足していたとして陳謝しました。

9月18日の本会議で、反対・賛成討論の後、採決の結果、賛成多数で認定しました。



青木彰榮 委員長



獅子舞（あゆーむ 多目的交流広場）

平成20年度各会計決算額表			
会計項目	歳入（町の収入）	歳出（町の支出）	
一般会計	78億3,917万円	74億5,578万円	
特別会計	十王財産区	115万円 / 22万円	
	下水道	11億2,364万円	11億 947万円
	国民健康保険	16億1,015万円	15億1,856万円
	老人保健	1億6,376万円	1億7,788万円
	農業集落排水	8,250万円	8,119万円
	介護保険	13億4,928万円	13億 893万円
	後期高齢者医療	1億2,937万円	1億2,723万円
企業会計	水道	収益的収支	3億2,795万円 / 2億8,144万円
		資本的収支	3,751万円 / 2億3,846万円
	病院	収益的収支	11億8,073万円 / 11億7,775万円
		資本的収支	1,262万円 / 8,377万円
	訪問看護	収益的収支	3,341万円 / 3,995万円
合計	138億9,129万円	136億 63万円	

※万円未満は端数を整理しています。

賛成

討論

反対

賛成討論

守谷丹吾 議員

平成20年度は、「自立しながら成長できる町を創るため、人づくりを基本に、町民と協働によりすすめる」として始まりました。

事業では、町営バスに変わるデマンドタクシーの運行や農業の軸となる「地域農業活性化センター」の設置、プレミアム商品券の発行、荒砥高等学校新入生応援事業、民設民営の全町光ファイバー通信網整備などを評価します。

財政状況では、町税は経済不況の影響で減少ですが、国の経済対策による臨時交付金などがあり、実質収支は黒字になりました。

また、公債費比率も前年度より1.8%改善し、地方債残高も前年度と比べ約5億5千万円減少し約89億円になったことを評価します。今後、町民が安心して生活できる町政の執行を求め賛成討論とします。

反対討論

佐竹典明 議員

地区公民館の現体制では、地域の方と職員の交流が十分にできないという声が出ています。

大規模林道の後年度負担金は、計上すべきではありません。

町が、環境対策費として1100万円以上税金を投入している田中豚舎の汚水・悪臭は、何年たっても改善がはかられません。町に確約書を守らせる手立てがあるのか疑わしいです。「あゆーむ」の建設は、公

共施設が空いてくること、明らかになかた、「新たな箱物はいらぬ」という多数の町民の声を聞いたのか疑問です。

納税義務のない一般会計の各種手数料や使用料などへ、消費税を転嫁することは止めるべきです。

反対議員（2人）

本木勝利議員
佐竹典明議員

賛成議員（11人）

五十嵐政司議員
菅 祐二議員
岡田 明議員
青木彰榮議員
加藤秀人議員
今野正明議員
遠藤幸一議員
守谷丹吾議員
関千鶴子議員
菅原隆男議員
佐藤京一議員

依然厳しい財政力

平成20年度に行った主な事業

デマンド型交通運行事業	461万円
こぐわ保育園送迎バス更新事業	601万円
合併処理浄化槽整備事業	701万円
産地競争力強化総合対策事業 (畜産関係機械購入補助)	791万円
やまがた新時代産地形成事業 (遊休農地解消のための補助)	480万円
松くい虫防除事業等	500万円
森林環境保全整備事業 (林道白鷹東部線測量調査費)	795万円
企業立地促進事業 (町産業立地促進資金、町企業立地促進事業費補助金)	3,870万円
除雪事業	9,414万円
赤坂深山線道路改良事業	1,274万円
荒砥駅本宿線道路改良事業	1,449万円
田尻笠松線道路改良事業	1,049万円
鮎貝まちづくり事業	6億4,994万円
町民プール整備事業	1億6,340万円
学校給食共同調理場配送車更新事業	556万円



羽黒神社の

監査意見書

なお一層の経費削減を期待

全体として、計画に沿った行財政改革が実施されており、今後なお一層の経費削減を期待します。

税収の未納対策では努力のあとが見られるが、具体的な実績が課題となります。

入札は適正に執行されているが、特に随意契約ではより高い公平性・透明性の確保に向けた基準づくりが必要なのではないか。

行政は、町民の奉仕者であるという原点に立ち返り、経験と前向きな発想の転換や行動力が益々求められます。

課内、各課の連携をはかり無駄を省き風通しのよい組織づくりを構築し、職員全員が行政のプロ意識を自覚し、町民の期待に応え信頼されるように、町民目線を最優先にさらなる実践強化を期待します。

小林泰史 代表監査委員
加藤秀人 監査委員

どうなる？ まちの財政力

区分・年度	20年度	19年度	18年度	説明
財政力指数	0.274	0.270	0.264	1.00に近いほど余裕がある。
経常収支比率	92.2	93.0	92.6	70%に収まるのが妥当。80%を越えると危険ライン。
自主財源比率	26.0	29.0	27.6	町税、固定資産税など自ら調達できる財源。
公債費比率	15.8	17.6	20.1	20%以上は赤信号。
実質公債費比率	21.1	22.0	23.7	公営企業等を含む。

過疎法の重要性

歳 入
(町の収入)

質 疑

議員 白鷹町は、投資的経費が少ない方です。一般財源が維持費や運営費に充てられることになればますます投資的経費には向かなくなり、そこで財政上重要なのが過疎法の指定を受けられるかどうかになります。

もし、過疎法の指定がはずれた時は、経過措置だけになってしまうわけで、財政上たいへん厳しくなります。白鷹町として、過疎立法の成立や指定要件等について、重ねて要望すべきであると思えますが、町長としての考えを伺います。

当局 本町は、過疎法の地域指定を受け有効に活用し、地域振興に多大な効果があったと思っています。

新たな議員立法としての過疎法のあり方が、今年中に示されるものと思えます。

現在、全国過疎連盟山形県支部長の小国町長と連携をとりながら、過疎立法が成立し引き続き指定を受けられるように取り組んでいきたいと思っています。

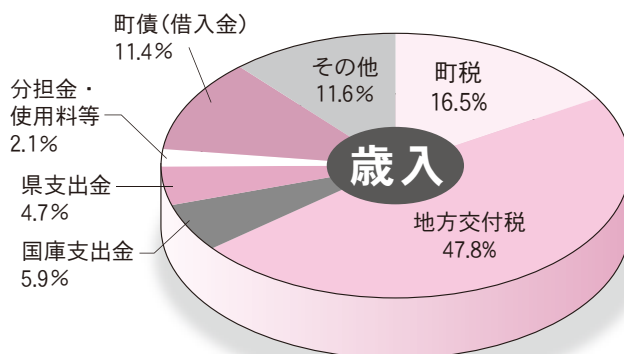


この子たちの未来に輝きを

平成20年度一般会計収入決算額一覧

歳入(町の収入)	決 算 額
町 税	12億9,317万円
地方交付税	37億5,040万円
国庫支出金	4億6,092万円
県支出金	3億6,726万円
分担金・使用料等	1億6,665万円
町 債(借入金)	8億9,250万円
そ の 他	9億 827万円
合 計	78億3,917万円

※万円未満は端数を整理しています。



歳出

(町の支出)



ふるさと応援制度に寄付していただいたかたに

総務費

土地開発公社の不祥事その後は

議員 問題があった未登記処理業務委託について道義的責任があるとした方のその後はどうなっていますか。

また、今後の未登記処理業務はどうしていくか伺います。

当局 経済的なことで示したいことから、町への寄附金という形で対応しました。

開発公社の用地関係事務局は今年6月に総務課から

建設水道課に移して業務を行っています。

登記についての今後は嘱託登記というよりも専門機関に委託という考え方もしています。費用面も含めて検討していきます。

ふるさと応援費への反応は
議員 ふるさと応援費について寄附者側の反応と今年度の動向を伺います。

当局 昨年度は187名の方より443万円の寄附があったなかで、寄附をいただいた方から使途についての希望もあり、それを尊重する形で活用していきたいと考えています。

今年度は現在のところ約100名の方よりいただいている状況です。

民生費

町と民生委員活動の連携強化を

議員 民生委員の活動で、現在の課題をどのようにとらえていますか。

また、町と民生委員との連携はどのように行っているか伺います。

当局 現在54名の民生委員の方がいます。地域との信頼関係を要するなかでボランティアということもあって選任にあたっての苦労もあるようです。

貧困や虐待の問題、父子、母子家庭の増加など家庭環境が複雑になってきている傾向のなかで、民生委員の方々との情報交換の機会を町全体やそれぞれの地域でつくっています。

保護プラン作成料の増額を
議員 介護予防プラン作成の委託先と依頼数を伺います。また、その単価について

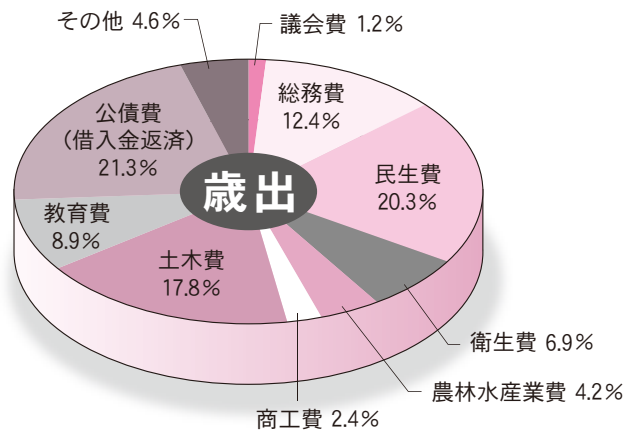
は低すぎるという声はありませんか。

当局 昨年度の総数は1677件で、内1014件を社会福祉協議会や支援事業所に委託しています。単価については国で定めている1件3600円に初回加算2250円で行い、高い金額ではないなかでがんばっていただいています。

平成20年度一般会計支出決算額一覧

歳出(町の支出)	決算額
議会費	8,690万円
総務費	9億2,234万円
民生費	15億1,152万円
衛生費	5億1,722万円
農林水産業費	3億1,029万円
商工費	1億8,127万円
土木費	13億2,760万円
教育費	6億6,184万円
公債費(借入金返済)	15億8,510万円
その他	3億5,170万円
合計	74億5,578万円

※万円未満は端数を整理しています。



歳出 (町の支出)

労働費

町としての雇用対策は

議員 雇用状況が厳しいなかで、雇用の確保についてどのような対応をしたのか伺います。

また、町として雇用創出のための抜本的な対策を行うべきと考えますがいかがですか。

当局 中小企業に対しての経営安定資金の利子補給、保証料の補給を行っていま

す。

国県の動向を見ながら貸付制度のPRをしたり、経済の活性化と合わせて対策を考えていきます。

労働費としての計上は除くべき

議員 統計として、町民一人当たりの労働費が類似団体と比較して大きくなって

います。労働費の中身の実態から見れば、貸付金や勤労者総合福祉センターに関するものは除くべきと思いますがいかがですか。

当局 センターの管理費については、そのように予算編成時に整合性を取りたいと考えています。

農林水産費

ナラ枯れ対策は

議員 松食い被害の対策費は多くあるが、今ですんでいるナラ枯れにはどう対処していきますか。

当局 当町でも今年度になり4000本を超える被害を確認しています。対策については急峻な地ということもあって人力での作業が困難であり、道路沿いなどの被害木の伐採などを行っている状況です。

県の林業試験場での研究も行っており、さらに対策を模索していきます。

飼育頭数が確約書違反では

議員 田中豚舎との確約書（母豚数530頭以内）に明らかに違反していた状況があります。飼育頭数の把握をどのようにしているのか伺います。さらに悪臭について改善されない理由を伺います。

当局 母豚数については予防注射数で飼育頭数の把握ができなくなった経緯があります。今後は別な方法で把握を行い確約書違反のな

いように指導していきます。悪臭については水処理施設の増設によっていくらかの効果はあったと認識していますが、即効的な対策についてはもってないのが現状です。事業者との話し合いを重ねて信頼関係を深めていきます。

衛生費

健康づくりに関する活動費は

議員 健康づくり推進員連絡協議会、元氣ニコニコ推進会議の活動は、地域

の活動の中で重要な位置づけであり、活動費を増額してはどうですか。

当局 健康づくり推進員は243名で、各地域支部で食育に関すること、町の健康祭りの運営や健

康便りの発行などを行っています。元氣ニコニコ推進会議の会員は49名で、町の健康増進計画を推進実践する活動として、心のバリ

アフリー活動、禁煙の推進、健康教室の開催などを行っています。

町からの助成額につい



包丁さばきも板について（東根地区公民館）

土木費

白鷹ニュータウン公園の今後は

議員 管理委託料が発生している宝前町の白鷹ニュータウン公園は、今後どのようにしていく予定なのか伺います。また、地域住民か

当局 委託料はシルバー人材センターに草刈りを委託

しているものです。都市公園としての条例との問題もあり、地域に愛される公園づくりと合わせて検討しています。

教育費

協働のまちづくり交付金の配分は

議員 協働のまちづくり交付金は各地区公民館に

配分されるものですが、どのような基準で分けられますか。

当局 施設の規模やこれまでの実績などをふまえて、

また、地区館ごとに行う事業について教育委員会からの指示があるか伺います。

て、教育委員会で配分しています。

事業については、公民館大会、研究集会、新春交流会の3点です。

住民主体の公民館づくりの成果は

議員 住民主体の公民館

ということと館長代理と書記を民間人にしたこと

についての成果を伺います。

当局 町民アンケートでは76%の方が住民主体の公民館に移行してよかつたとの意見もあり、意識が高まってきたと感じています。

商工費

ソフト小村の実態は

議員 ソフト小村への投資費用と実態家賃収入との年間差額と現在の使用状況を伺います。また、入居事業所の職種制限を緩和する考えはありますか。

当局 年間差額は589万6千円ほどで、現在は3棟が空き状況です。

経済不況の影響もあって空きがある状況ですが、白

鷹に合った活用の方法、産業の構築も念頭におきながら新たな取り組みも検討しています。

アルカディア財団の

経営改善策は

議員 源泉管理特別対策として626万円を補助して

いることなどを含め、今後の経営改善策はどうなっているのか伺います。

いるのか伺います。**当局** 原油高騰により生じた委託料との差額を補うための補助金です。

財団の今後については、第三セクター公益法人の法改正のなかで、経営視点や採算性をどこに置くか、民間的な分野と行政が関わる部分とにわけて、財政的な面を含めて考えていきます。



にぎやかな交流会（荒砥地区公民館）



本木勝利議員 税外負担が住みにくさの一因

町長 地域や各団体の自主的な活動を尊重

本木 区費、公民館費、社会福祉協議会費、学校後援会費など税外負担が多過ぎます。これが当町の住みにくさの一因と言われています。町長はどのように考えているか伺います。

町長 区費をはじめとして多岐にわたっているものと認識しています。町民の意識や価値観が多様化するなかでいろいろな事情により負担が困難であれば組織や団体で十分協議をしていただき、負担をいただかないなどの措置を理解いただければと思います。

■地域との連携を密に
本木 社会福祉協議会費は、趣旨に賛同した方から集めるということが守られていますか。

また、社会福祉協議会で低所得者対策を検討すべきと思いますがいかがですか。
健康福祉課長 社会福祉協議会は全戸加入による町民によって構成されています。低所得者対策については、生活保護基準を下回る方々からの会費納入は検討を要するのかと思います。生活保護家庭に対しては日本赤十字社費、社会福祉協議会費の納付書は渡していません。

趣旨に賛同いただきながらも、ご負担をお願いできるかどうかは、地域の実態を知っておられる町内長さん、民生委員の方々と連携を密にして取り組むべきと認識をしています。



堂々の分列行進

■保育の責任は

本木 保育については町が責任を負うべきであり、保育園後援会は廃止すべきだと思いますがいかがですか。
健康福祉課長 後援会はひがしね、こぐわ保育園に組

織されています。よりよい環境の中で子供を育てたいという思いから組織されたものと思っています。今後とも後援会組織のなかで保育園活動にご支援いただければありがたいと思っています。

■報酬の見直しを
本木 消防後援会は、会費を主体とするよりも予防消防などで協力すべきです。また、災害時に身を挺して任務にあたる消防団員の報酬を引き上げるべきだと思いますがいかがですか。
総務課長 地域の防災意識、団員の士気高揚のため地域の歴史のなかではごくくんできた結果として後援会費があると承知をしており、尊重するべきものと思っています。

報酬については非常に少額ななかで大きな責務を果たしていただいています。処遇などは今まで地域の方々が培ってきた思いもある訳ですので、それも含めて考える必要があると思います。



守谷丹吾議員

人・自然ともにきらめくまちづくりをすすめるべき

町長 関係団体と話し合いながら対応

■ゴミを拾う気持ち

守谷 気楽に行うポイ捨ても、拾う時は勇気と度胸が必要で、車から降りて拾う時の気持ちを、町民課長に伺います。

町民課長 捨てられているゴミを、拾う時はとても残念だという気持ちです。立場、ゴミに関する意識は高いと思っていますから、今後も道路の美化に力を入れていきます。

守谷 守り隊の活動として、ポイ捨て防止の看板を設置しましたが、効果は大きなものがありました。「白鷹こみゼロの日」の事業のなかで全町内に取り入れてはいいかがですか。

■「綺麗な道を守り隊」活動

町民課長 町民の要望により、ポイ捨ての多い場所には、町で準備している看板を設置してもらっています。町民の方や運転手の方への意識の高揚には、看板の文言が非常に大事だと思います。

今後の美化活動などに参

考にしたいと思います。

■人・自然ともにきらめき商品券

守谷 看板の標語を全町民から募集し、採用する標語には「人・自然ともにきらめく商品券」を授与してはいいかがですか。

きれいにすることを考えることは、環境を良くすることにもつながると思うのですがどうですか。



町長 たいへん参考になる質問や提案をいただきました。

対応については、美しい郷づくり推進会議やごみゼロの日の実行委員会などの団体にも話をさせてもらいながら、今後の参考にさせていただきます。

(見本)

1,000円

人・自然ともにきらめき商品券

有効期限 平成 年 月 日まで有効 白鷹町

■農業をやりたい方に夢を

守谷 農地法では、農地を購入する場合、50aの面積条件があります。

町として、この条件を緩和することはできませんか。

町長 規制緩和と政策により、全国52特区において、試行的に10a以上に緩和し実施しています。それで弊害がないことから農地法の改正を行い、農業委員会に権限が移されることになり、現在、検討していると聞いています。

■窓口業務の延長

守谷 役場の窓口業務を、日曜日の午前中だけでも行って欲しいという声があります。実施する時の課題は何ですか。

町民課長 コンピューター部分を外部委託しており、管理面と稼働することによる経費などですが、庁内で検討したいと思います。



佐竹典明議員

町の食育基本計画をどうする

町長 今年度3月末までに策定

■食育基本計画は

佐竹 町は、食育基本計画を今年度中に策定するといっていますが、現在実施している学校給食や地産地消などをどう生かし策定するのか、お聞きします。

町長 学校給食に「白鷹FODD（風土）恵みの日」、毎月実施の「おらほの食材」などの地産産を生かしています。米も全量はえぬき一等米を使用しています。食育基本計画は地産地消の観点も含め、「どりいむ農園直売所」「のどか村」「まあどんな会」などの生産団体の声を生かし今年度3月末頃までに策定したいと考えています。

■子どもの食を考える

佐竹 子どもが朝食を食べないことによる精神面の異変についてもいわれていますが、町内の子どもたち、その傾向がうかがえますか。

教育長 朝、食べてこない子はわずかにいますが、ほとんどの子は食べてきます。朝食の効果は脳の活性化につながり、学習の定着度なども高いです。今後とも、学校関係団体と連携し改善を目指していきます。

■介護認定見直し成る

佐竹 4月に導入されたばかりの要介護認定の項目基準が新しくなった制度は、2割の人が軽く判定されるなど問題が多く、今年7月末その基準を大幅に見直す



おいしい給食（鮎貝小学校）

ことが決まりました。また、制度の改訂は、サービスの費用を抑えることが目的だったことが厚生労働省の内部文書で明らかになりました。こうした姿勢に保険者としてどう対応されるのか伺

います。
町長 制度の不備があれば、見直していかなければならぬものと思います。今後どのような制度が利用しやすいのか、注視していきます。

■安心して利用できる制度に

佐竹 問題の多い要介護認定制度や利用限度額は廃止して、現場の専門家の判断で必要な介護が受けられる、安心できる制度にすべきと考えますがいかがですか。

町長 この制度を将来にわたって安定的に存続させ機能させるには、介護予防の徹底です。また介護給付費の伸びを限りなく抑え、公平なサービスを確実に提供することが必要です。介護認定制度は欠くことができないものです。

一般会計

子育て応援特別手当などに

2億5557万円を補正

総額76億6682万円となる

補正の主なもの

- 一般会計補正予算の主なものは
- ・ 財政調整基金積立 5000万円
- ・ 減債基金積立 2000万円
- ・ 病院経営基盤強化費 5000万円
- ・ 除雪事業 4500万円
- ・ 保育園運営委託料 3091万円
- ・ 畜産規模拡大支援事業 1819万円
- ・ 戸籍総合システム導入事業 1628万円
- ・ 子育て応援特別手当支給事業 1391万円
- 財源は国県支出金、繰越金などで対応します。

質疑

議員 後期高齢者医療制度は制度改正が幾度もあり、朝令暮改といわざるを得ない制度だと思いますがどうですか。

当局 ご指摘のとおり、たび重なる制度改正がありました。ここまでやってきて、また変わるといふことは、受け皿がどうなるのか非常に心配しています。

契約

- 工事名** 白鷹公共下水道事業白鷹浄化管理センター水処理施設増設（電気設備）工事
工事場所 白鷹町大字荒砥甲地内
契約金額 1億9,845万円
契約の相手方 (株)高岳製作所東北支社
- 工事名** 白鷹公共下水道事業白鷹浄化管理センター水処理施設増設（機械設備）工事
工事場所 白鷹町大字荒砥甲地内
契約金額 1億8,727万8,000円
契約の相手方 扶桑建設工業(株) 仙台支店
- 工事名** 町道赤坂深山線道路改良工事
工事場所 白鷹町大字深山地内
契約金額 6,667万5,000円
契約の相手方 (株)鈴木工務店

平成21年度補正予算総括表

会計項目	補正額	補正後の額
一般会計	2億5,557万円	76億6,682万円
特別会計	下水道	408万円
	国民健康保険	1,713万円
	老人保健	69万円
	農業集落排水	55万円
	介護保険	3,757万円
	後期高齢者医療	418万円

人事

任期満了などに伴う人事案件は、下記の方々が同意、推薦されました。

人権擁護委員候補者
 蒲生成子氏（荒砥）



船山義彦氏

固定資産評価審査
 委員会委員



竹田恵美氏

教育委員会委員

条例

新しくなること

○白鷹町国民健康保険条例
 出産一次金の額は現在38万円ですが、平成21年10月1日から平成23年3月31日までの間、42万円に引き上げられます。

○白鷹町スクールバス条例
 現行3路線を次の6路線に運行区域を拡充するものです。

- 1 荒砥針生線
- 2 荒砥大瀬線
- 3 荒砥中山線
- 4 鮎貝高岡線
- 5 横田尻黒鴨線
- 6 鮎貝高玉線

委員会レポート

常任委員会

総務厚生

何事にも十分な説明と理解が必要

9月15日に本委員会を開催し、次のことについて所管事務調査を行いました。

- ①白鷹町第四次総合計画の総括（中間）について
- ②白鷹町第三次行財政改革大綱の総括について
- ③旧荒砥駐在所用地購入について
- ④ごみ処理手数料の改正などについて
- ⑤し尿処理の状況について
- ⑥固定資産（土地）の評価について
- ⑦置賜地域周産期医療ネットワーク（案）について

各担当課から説明を受けました。

委員から①について、限られた財政のなか、第5次総合計画の策定では、何に絞って力をいれていくのかという問いに

第4次の時は、ある程度将来を見据えていたが、今住民が関心を持っていることは、今の生活をどうしていくかという点にあるので、この点をどう取り入れていくかわれている②では、当面何に取

り組むのか。という問いに共同調理場と保育所の民営化は行っていく必要があるが、十分な説明と理解を得ながら行っていくと答弁がありました。

③では購入理由の中に、地域公民館（分館）に隣接し、避難所としての活用も視野にとあるが、周辺には多くの避難所があるうえ、分館は地域の方が負担をしながら、建設や維持管理を行ってきた。他の分館との整合性をどうするのかという問いに



旧荒砥駐在所

さらに検討していくとの答弁がありました。

大ホールは取り壊しが適当

産建文教

9月16日に本委員会を開催し、請願審査2件と所管事務調査を行いました。

「政府備蓄米をルールに基づき買い入れることを求める請願」は、米価が大暴落する危険性を回避するため緊急に買い入れすべきとして採択しました。

「日米FTA反対、農家経営の危機打開を求める請願」は、農産物輸入自由化は農業破壊につながるので反対ということで採択となりました。

所管事務調査では産業振興課から、

①白鷹町空き店舗利用促進対策事業（仮称）は、町内の中心街地の空き店舗を利用し、雇用の拡大を促進する企業の育成をはかるために100万円を上限として、空き店舗を利用する方に助成するもの②豚舎環境問題の現状は、水質汚濁防止法の基準を上回る放流は行われていないし、臭気の苦情件数も減ってはいるが臭いの範囲が広がっています③パレス松風の施設管理については、白鷹町ふるさと森林公園指定管理者仕様書」の説明を受けました。

建設水道課からは、21年度の除雪事業計画と地域コミュニティ克雪支援事業の説明がありました。

教育委員会から、中央公民館・大ホール施設に関する庁内検討中間報告がありました。

中央公民館の改修に必要な額は3億から3億5000万円、大ホールは2億円ほどかかります。このことから中央公民館はリニューアルして機能を充実させ、大ホールは取り壊しをするのが適当との中間報告（案）がありました。

最後に、町内のナラ枯れの状況を現地調査しました。



現地調査

鮎貝まちづくり事業調査特別委員会

NPOを育成すべき

9月3日特別委員会が開催され、①文化交流センターの運営②ホールなどの要望書への対応③土地区画整理組合事業の状況④鮎貝まちづくり交付金事業の進捗状況の報告がありました。文化交流センターの運営については、指定管理者の管理運営仕様書と指定管理者募集要項が示されました。以前はNPOを基本として管理運営をすすめるとしていたものが、NPOでなく株式会社を含む一般募ですすめるとの説明がありました。

委員からは、唐突であり理解できないなどの意見が出されました。また、時間をかけて当面は当局で運営しながら、NPOを育てていくべきとの要望も出されました。

中央公民館の大ホールが使用できないため、今年の文化祭のホール(あゆーむ)活用に関して芸術文化協会からの要望には、予算もあることから、今後も利用可能なものを整備していくとの説明を受けました。

区画整理組合事業に関しては、平成23年3月の解除には、今の保留地の販売状況では厳しいものがあり、今後、組合の意向などもふまえて対応していかねばならないとの説明がありました。



白鷹町少年少女合唱団 (あゆーむ ホール)

鮎貝まちづくり交付金事業は、順調に進展し、総額16億8千万円の事業がまもなく終了します。

請願審査

採択された請願

- 政府備蓄米をルールに基づき買い入れることを求める請願
請願者 白鷹町農民連会長 今 敏夫
- 日米FTA反対、農家経営の危機打開を求める請願
請願者 白鷹町農民連会長 今 敏夫

意見書提出

- 政府備蓄米をルールに基づき買い入れることを求める意見書
米価暴落を回避するため、政府が決めている備蓄米100万トンに不足する分を緊急に買い入れ、市場を引き締めること。
- 日米FTA反対、農家経営の危機打開を求める意見書
日本農業を壊滅に導く日米FTA交渉は行わないことを強く要望する。

議会広報特別委員会

広報の基本を学ぶ

8月25日と26日の両日、東京都で開催された「第70回全国町村議会広報研修会」に広報委員全員が参加しました。

研修内容は ①分かりやすい文章表現・表記について ②情報時代に求められる広報 ③ネットPR発想で広がるステークホルダー(企業の利害関係者)とのコミュニケーションと題する講演と各町村の「議会広報」の講評があり、本町の「議会だよりしらたか102号」は良い評価をいただきました。



研修風景(東京都)

追跡

— あの質問のゆくえ —

雇用の場を創る知恵と工夫が必要だ

本町の人口が1万6,000人台になるのは、時間の問題になってきています。人口減少は町の存亡にもかかわり、若者が定着できる環境づくりは、雇用の場の確保が前提条件と考えますがどうですか。
平成17年12月定例議会

町長答弁

将来に向けてその基盤づくりをしていく

既存企業の事業拡大、企業の進出は、雇用の場の拡大、所得の向上、税源の確保など、あらゆる面で町の活性化につながるものと認識しています。税制上の優遇制度や工業用地の提供、人材の確保などに支援していきます。

どうなった



エナーテック株白鷹工場

町単独での企業立地の優遇制度として条例化はしていませんが、その状況に応じて期限付きで、「白鷹町企業立地促進事業実施要綱」や「白鷹町産業立地促進資金融資制度要綱」を定め、用地取得の助成や奨励補助金の交付、融資制度を新設し、企業誘致による工場の新設や既存企業の工場拡張の支援をしてきました。

がんばっています



シリーズ2 大滝明香さん

Q 就農した動機と時期

A 3年目です。手伝いの延長で今日に至ります。

Q 就農して感じたこと

A 牛の生命力の強さ、人に支えられていること。

Q 将来の夢

A いろんな所を旅してみたいです。



発行責任者・議長
船山 仁
広報委員
委員長
青木 彰 榮
副委員長・編集長
関 千鶴子
委員
守谷 丹吾
委員
菅原 隆男
委員
佐藤 京一
印刷・長谷川印刷

衆議院選挙は国民誰しもがたずをのんで見守った。政権交代を掲げた民主党の大きなうねりに有権者は動き50年以上も政権を担ってきた自民党が下野しました。ある新聞に「歴史的ともいえる出来事に遭遇するのは、生涯のうちでそうあるものではない。世の中が劇的に動いた時、時代を画する出来事に接した時など」と書かれてありました。まさに、世の中が劇的に動いた瞬間でした。

町の第4次総合計画も終盤を迎え仕上げの時期に入りました。今、第5次総合計画策定に向け基本となるまちづくりアンケート調査の実施、また各地区で座談会が開催されています。今後10年間のまちづくりをどうすすめるか町民目線に立ち安心安全なまちづくりをどうすすめるのか注視するところです。(菅原)

編集後記

